

地域に貢献する病院を目指して



酒田医療センターは療養病床の病院へ



酒田医療センター(旧市立酒田病院)は昨年11月に医療療養病床の病院に生まれかわりました。ここは主に急性期病院での治療が終了した後、在宅や施設での生活に向かうまでに治療・療養が必要な患者さんのための回復期療養の病院です。日本海総合病院が担う救急医療をはじめとする急性期医療の、その後の受け皿となる施設が北庄内に少ないことから整備が計画されたものです。今年4月からは増築が始まり24年度までに病床数114、回復期のリハビリやデイケアなどの在宅復帰の支援や、療養型医療サービスを提供する施設が完成する予定です。



酒田医療センター完成予定イメージ

お問い合わせ先

日本海総合病院
〒998-8501 山形県酒田市あきほ町30
tel.0234-26-2001
fax.0234-26-5114

**日本海総合病院
酒田医療センター**
〒998-8585 山形県酒田市千石町二丁目3-20
tel.0234-23-1111
fax.0234-26-1946



陣痛・分娩・回復室が一体となったLDR室(産婦人科)



先端治療を提供する化学療法室



県内初導入の世界最速320列CT



より鮮明な画像が可能になった血管造影装置

や脳卒中といった重篤な患者や多発性外傷などの救急患者に高度医療を提供することが可能になります。さらに屋上には融雪装置付きのヘリポートが整備されており、庄内と最上や秋田県南の一部の地域をエリアとして、災害時には航空隊の救助ヘリなどを受け入れることになっていきます。また、新病院には酒田地区広域行政組合の「酒田救急ステーション」を新設して、酒田消防署の救急隊が常駐して救命救急センターとともに人命救助にあたる予定です。これは全国でも珍しい救急ワークステーションで、救急隊員に対して一部の医療行為が行える救命救急士の研修を行うなど医療知識や技術などの教

育拠点にもなっており、今後医師が増えればドクターカーに繋がったという構想もあるようです。一日に千二百〜千五百人の外来患者が来院する日本海総合病院では、現在でも救急科には症状の軽重に関わらず救急患者が集中しているため、酒田市の協力を得ながら19時から22時の間は酒田地区医師会の開業医が当番制で救急医療をサポートする計画で話し合いが進められています。高度医療を提供する新体制が整い、経営面でもたいへん順調に進んでいる日本海総合病院に、今後地域医療・三次医療の中核を担う医療施設として、更なる期待が高まりそうです。



右/救急外来
左/内視鏡室

日本海総合病院 地域の「安心・安全」を支える 高度医療を提供

私たちの健康と暮らしを支える地域医療の砦として生まれかわった日本海総合病院。4月1日にはヘリポートや救急ワークステーションを備えた救命救急センターがいよいよスタート!

最新の設備と医療体制で 地域医療を牽引

日本における救急医療体制は都道府県が作成する医療計画に基づいて整備されており、現在、日本海総合病院は庄内地域における拠点病院として位置づけられています。さらに、山形県と酒田市は日



ヘリポートも完成し、緊急時の受入体制が整う。

本海総合病院を庄内における三次医療(複数診療科にわたる特に高度な処置が必要、または重篤な患者への対応機関)を担う中核病院として位置付け、統合再編後は、施設整備を図りながら急性期医療や高度医療、救急医療の集約を行ってき

ました。平成22年の秋には消化器内科、整形外科、精神科の診療科を日本海総合病院に移行して医療機能を集約・高度化させたほか、酒田市

ら稼働する救命救急センターは、県内では県立中央病院、公立置賜総合病院に次ぐ3つ目のセンターです。常時5名以上の専門医が24時間体制で治療にあたり、これまで対応が難しかった急性心筋梗塞

立看護専門学校の教育部門を受託したり、小児科の救急診療について開業医にサポートを依頼するなど、医療機関との連携を強めながら地域医療を牽引しています。日本海総合病院の増築の総工費は約55億円。増築により外来診察ブースは17増で53ブースに、病床数は118増で646床に、手術室は5増で12室になり、化学療法



山形県消防防災航空隊の救助ヘリ「もがみ」